

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	東邦チタニウム株式会社若松工場	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.4 /5	   	ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5	   	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5	  	がんばろう: 
4 高齢社会への対応	3.0 /5	  	ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい  4点以上
			ふつう  3点以上
			がんばろう  3点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.4	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.4
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.8
—		・耐用年数の長い内装仕上げ材を使用 ・空間の自由さを確保し将来の用途変更を考慮	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.6	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.8	LR2/ 1.1 節水	スコア 3.4
・高効率な設備機器の採用によるCO2の削減		・自動水栓に加えて節水型便器を採用	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.3	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
—		—	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物的一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: —	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	

: 入力欄

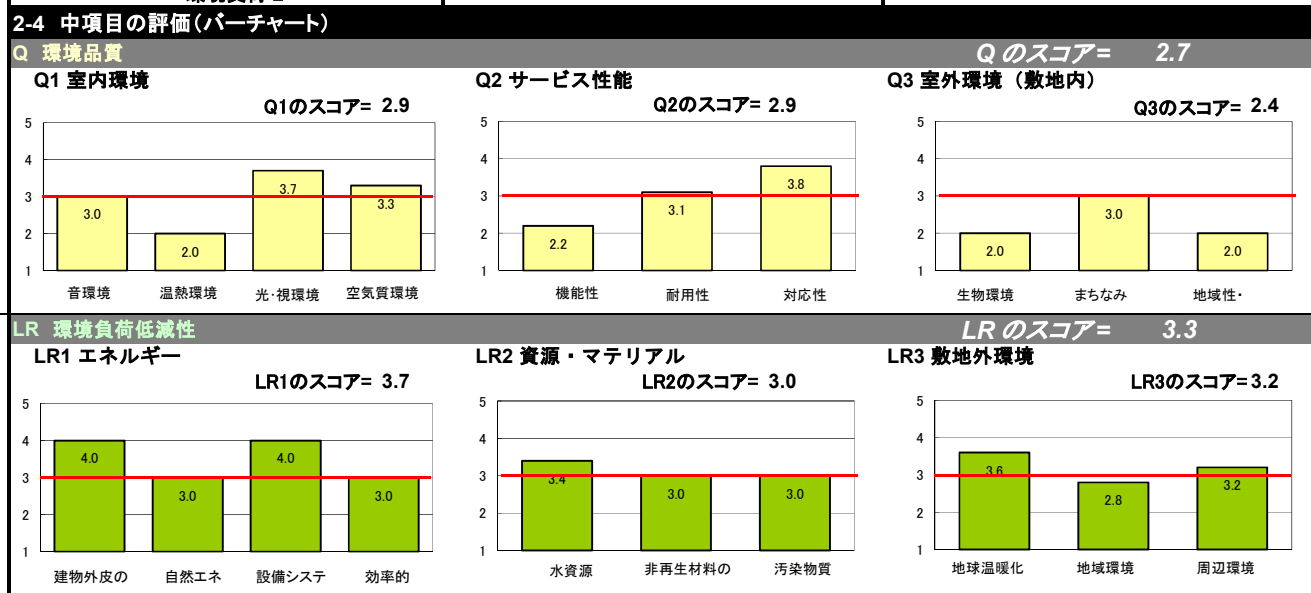
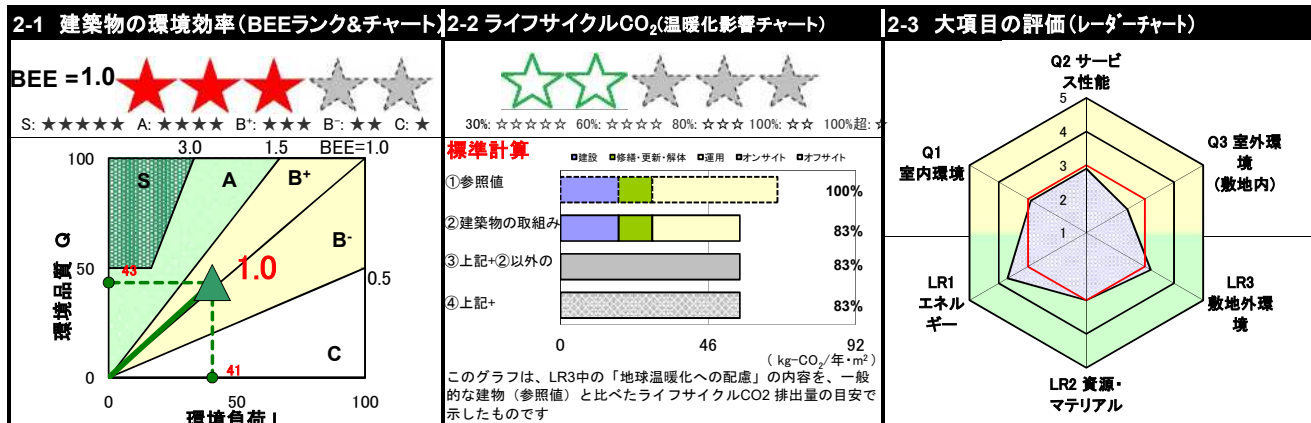
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東邦チタニウム株式会社若松工場	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市若松区響町1丁目6	構造	S造
用途地域	工業専用地域、22条区域	平均居住人員	40 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年7月14日
敷地面積	19,162 m ²	作成者	根岸 克幸
建築面積	5,120 m ²	確認日	2023年7月14日
延床面積	7,741 m ²	確認者	谷治 宏明



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・ほぼ全面的にF★★★★の建材を使用し、室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	・節水器具を積極的に採用し、水資源の保護に配慮している。	・高効率な設備機器の採用によりCO ₂ の削減に配慮している。 ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版

東邦チタニウム株式会社若松工場 NI粉第5工場建屋建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.7	
Q1 室内環境					0.32	-	-	2.9	
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		—		3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		—		3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	-	-		
1.3 吸音		—		3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.0	0.35	-	-	2.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温		—		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		—		3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		—		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		—		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		—		1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.7	0.25	-	-	3.7	
3.1 昼光利用				3.0	0.43	-	-		
1 昼光率		—		-	-	-	-		
2 方位別開口		—		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		—		3.0	1.00	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御		—		-	-	-	-		
3.3 照度		—		3.0	0.21	-	-		
3.4 照明制御		1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能		5.0	0.36	-	-		
4 空気質環境				3.3	0.25	-	-	3.3	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				2.3	0.30	-	-		
1 換気量		—		3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		—		3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		—		1.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		—		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		—		3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	2.9	
1 機能性				2.2	0.40	-	-	2.2	
1.1 機能性・使いやすさ				2.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		—		1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		—		2.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		—		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				2.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		—		1.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		—		3.0	0.33	-	-		
3 内装計画		—		3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		—		2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上材を使用		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐用年数が短くなるダクトにはガルバリウム等を採用		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		—		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラス:A		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	—	3.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	空間の自由さを確保し将来の用途変更へ考慮	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.2	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
3.2 設備機器の更新性	5	—	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.38	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		—	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		公共空間からほとんど見えない。	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		効率のよい設備機器を導入	4.0	0.50	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	自動水栓に加えて節水型便器を採用		4.0	0.40	-	-	
			3.0	0.60	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.70	-	-	
			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	—	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.30	-	-	
			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画		5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

東邦チタニウム株式会社若松工場 Ni粉第5工場建屋建設工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	-	○	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0	-	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	2.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η) -			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
屋光率	0.0%				
自然換気有効開口面積率	0.0%				

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
--------	-------	----	-------	------	---------	-----

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	30.0 VA/㎡
---------	-----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	2.5 m
-----	-------

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	%	レストスペース	%
------------	---	---------	---

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

3.1.1 階高のゆとり

階高	0 m
----	-----

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	0.3未満
-------	-------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	4900以上N/m2
-----	------------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	34%	建物緑化指数	4%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	0%	水平投影面積率	1%	地表面対策面積率	2%	舗装面積率	0%
-----	----	---------	----	----------	----	-------	----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.90	断熱等性能等級	対象外 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
--------------	---------	-----------	------	-----------	------

通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
-----------	------	-----------	------

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	0.70	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	------	------	------	-----	------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
--------	---	---------	---	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		0% 隣棟間隔指標Rw -																	
地表面対策面積率		0.0%		屋根面対策面積率		0.0%		外壁面対策面積率		0.0%									
見付面積Sb		㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		0 m		基準高さHb		0 m									
緑地		30㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	